

「電気料金と太陽光発電買取価格」学習会

開催報告

日時:4月8日(水)14時~16時

会場:主婦会館プラザエフ 5階会議室 参加36名



地球温暖化の対応策として、太陽光発電の普及促進を図り、一般家庭の太陽光発電設置の負担を軽くするため、政府は1月から補助金を出し、さらに設置家庭での余剰電力の買取価格を引き上げる計画です。その買取コストを「国民の全員参加型」で負担することを基本とする、と新エネルギー部会で提言されています。

今回このことについての学習会を開催しました。学習会では、「太陽光発電の新たな買取制度」について、経済産業省資源エネルギー庁新エネルギー対策課長の渡邊昇治さんからの説明を受け、意見交換を行いました。

また「グリーン電力基金」制度についても、電気事業連合会業務部長の月山将さんから説明してもらいました。



「太陽光発電の新たな買取制度」について

●経済産業省資源エネルギー庁 新エネルギー対策課長 渡邊昇治さん

●基本的な考え方

- 太陽光発電の導入拡大は、エネルギー政策や地球温暖化対策の観点はもとより、関連産業の裾野も広く、雇用創出の効果も大きく、高い期待が寄せられている。
- 太陽光発電は風力発電やバイオマス発電などと比べて現状では発電コストが高い水準にあるが、これまでの施策に加えて新たな措置も含めた総合的な取組みを集中的に実施することにより、太陽光発電のコストの低減目標を達成することが可能であり、かつ必要不可欠と考えられる。

●「新たな買取制度」の考え方

- 対象「太陽光発電」の自家消費を超える「余剰電力」に限定し、「発電事業目的」で設置されるものは含まない。また、既に導入されている太陽光発電については、買取対象に含めることを基本とする。
- 買取価格と買取期間 法令に基づき、国が設定して一般電気事業者に当該価格での買取を義務づけるものとする。
- 買取費用の負担とその水準 電力需要家全てが負担することを基本とする。負担水準は、標準世帯（月間300kWh）において月額数十円程度～100円程度とし、高額な費用負担を避けるとともに、具体的な買取価格の水準を毎年低減させていく仕組み等を検討する。



出された主な質問・意見

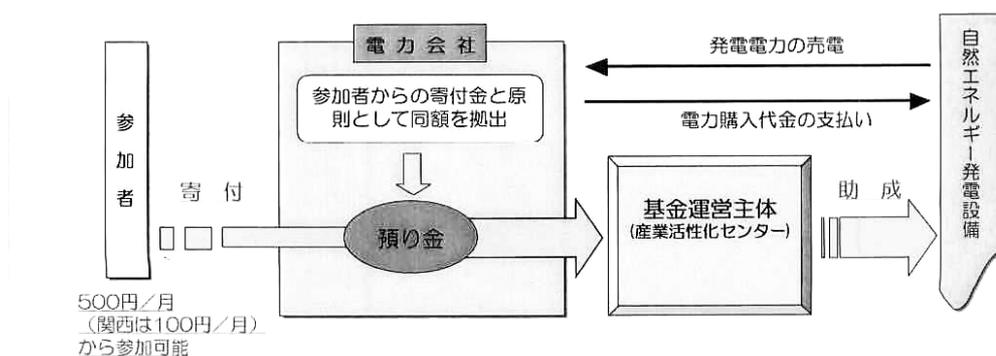
- ☆ 太陽光パネルを設置している。余剰電力はほとんど出ないのですが。
⇒ 全国平均ですが6割は余剰電力として売電しています。
- ☆ 買取の全体像を知りたい。事業者への転嫁など、青写真はあるのか。
⇒ 太陽光発電の8割は住宅。買取はここを中心にやります。学校、オフィスにはほとんど余剰電力はありません。
- ☆ 余剰電力の買取を49円/kWhに引き上げる必要があるということだが、この金額で将来いけるのか。集合住宅（マンション等）での買取は考えているのか。

- ⇒ マンション等でも申請可能ですが、実態は税金等難しい面がある。
- ☆ パネル設置費用は妥当なのか。産官学でやれることはどんどんやって欲しい。取りやすいところにかぶせているのでは。
- ☆ 何のために普及するのが抜けている。お金のことばかりに終始している。地球環境を考えてCO2削減に寄与したいと思っている。温暖化のことにふれて欲しい。
- ☆ デメリットの説明もきちんとして欲しい。太陽光発電の「見える化」をすすめて欲しい。PR効果の高い方法を考えていただきたい。太陽光発電のよいところが感じられるようにしてほしい。
- ☆ 家計簿活動をしている。20～30代の収入が少ない世帯が増えている。「環境」が大事なのは判るが、日々の生活も大事だという声がある。インフラの整備は国の責任なのに、一律国民全員負担はおかしい。
- ☆ 太陽光発電システムそのものを安く買えるよう、開発への補助に充てるというのはどうか、
- ⇒ 低炭素社会を目指すというのは大前提なので、あえてふれなかった。太陽光発電はパネルを空いているスペースにおけるのが一番のメリットです。メーカーの努力で販売価格を下げた場合に補助金を出している。低所得者の配慮に関しては、考え方は未整理だが複雑な制度は運用しにくい。判りやすい仕組みにしたい。

「太陽光発電の新たな買取制度」については、多くの質問・意見・提案が出されました。「新エネルギー」には太陽光発電のほかに、風力発電、バイオマス発電、クリーンエネルギー自動車等14種類があります。その中で、最近特にクローズアップされているのが太陽光発電です。コストを下げるのが大きな課題になりますが、特に買取コストを「電気料金への上乗せする」については私たち消費者にも納得できる丁寧な説明が望まれます。

「グリーン電力基金について」

○グリーン電力基金の概要（平成21年4月現在） ●電気事業連合会 業務部長 月山 将さん



出典) 新エネルギー部会グリーンエネルギー利用拡大委員会(第5回)資料

出された主な質問・意見

- ☆ 平成12年より、基金に参加している。省エネを一步踏み出したが、PR不足。マッチングギフト(寄付された金額と同額を電力会社が拠出する制度)はやめて、電力会社負担分を有効に使って欲しい。
- ☆ グリーン電力基金の現況、将来の展望はどうですか。
- ⇒ 加入状況は、参加37,382口(平成21年3月末現在)、基金への寄付金額は年間約2.2億円。平成15年度をピークに参加口数は減る傾向にある。助成は産業活性化センターを通じて活用。公共施設特に教育機関に助成、個人は対象外。エネルギー別助成状況は太陽光発電施設への助成が過半数。広報には苦勞している。